



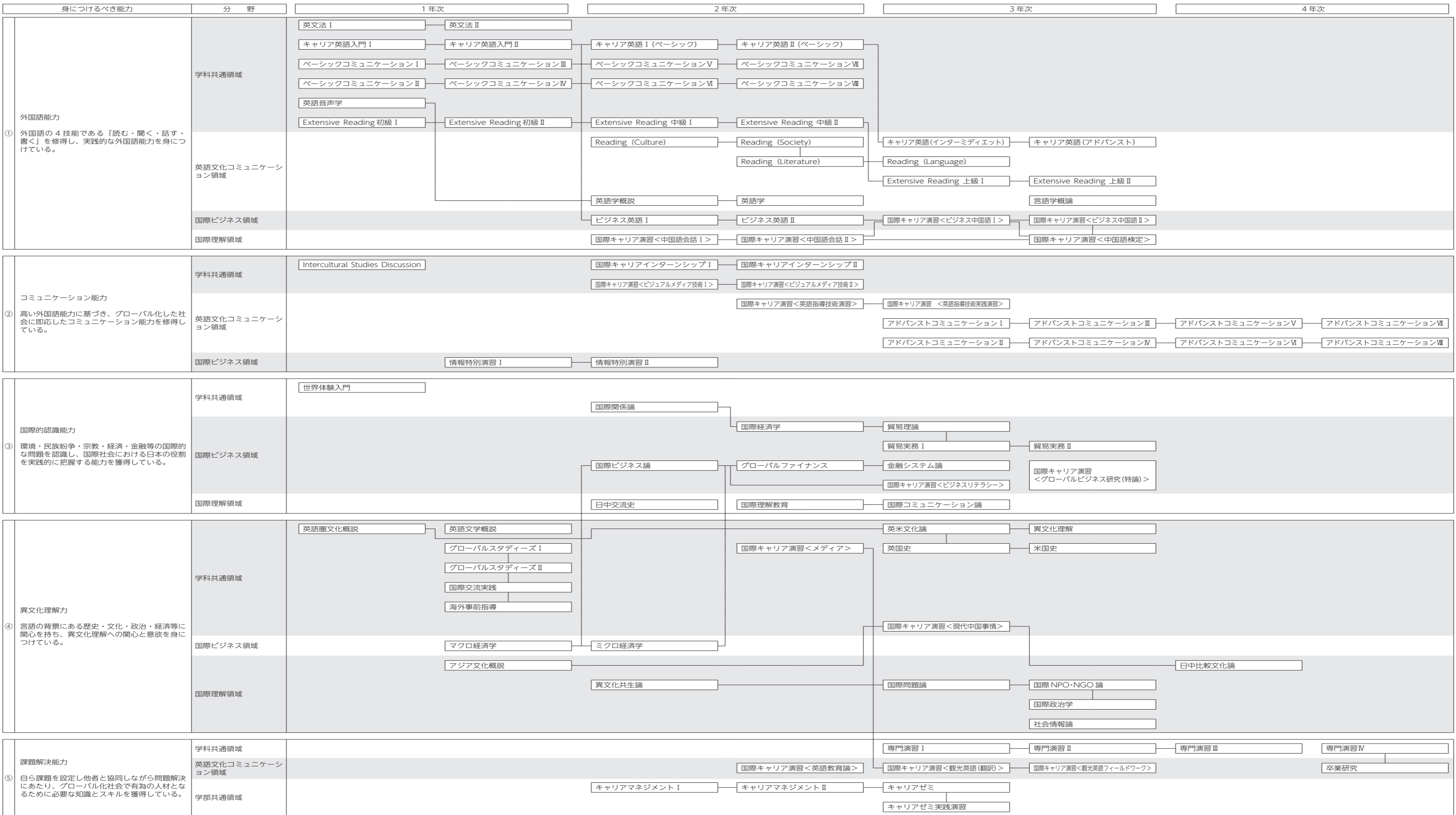
# 人文社会学部 国際キャリア学科 (令和2~5年度入学生) 履修系統図

【教育課程編成・実施の方針】(カリキュラム・ポリシー)

**【教育課程の編成、教育内容】**  
 国際キャリア学科は、グローバル化した社会、より複雑になりつつある国際問題に対処できる能力・知識・スキルを体系的、実践的に学ぶことを目的として教育課程を編成します。1、2年次では語学力の向上に重点を置き、さらに3年次からは各自の進路・適性に応じて、①英語・英語教育コース、②国際ビジネスコース、③国際理解・協力コースの3領域からそれぞれ指定の科目を選択履修します。3、4年次では「専門演習Ⅰ～Ⅳ(ゼミ)」を受講し、希望者は「卒業研究」に取り組みます。  
 (1) 1年次においては、「英文法Ⅰ・Ⅱ」「Extensive Reading初級Ⅰ・Ⅱ」「ベーシックコミュニケーションⅠ～Ⅳ」「キャリア英語入門Ⅰ・Ⅱ」を必修とします。加えて、「マクロ経済学」「英語圏文化概説」の授業が選択できます。  
 (2) 2年次においては、中級レベル以上の英語力や国際的な感覚を身に付けるために、「Extensive Reading中級Ⅰ・Ⅱ」「ベーシックコミュニケーションⅤ～Ⅷ」を必修とします。また、それら学科共通領域に加え、3年次からの専門演習(ゼミ)での教育に向けて、「英語・英語教育コース」では、「Reading(Culture)」「Reading(Society)」「Reading(Literature)」「英語学概説」「英語学」、②国際ビジネスコースでは、「国際ビジネス論」「国際経済学」「グローバルファイナンス」、③国際理解・協力コースでは、「国際理解教育」「異文化共生論」の3つの領域を土台として科目を選択します。  
 (3) 3年次からは、各自の所属する専門演習(ゼミ)を中心に、各自、コース領域や進路・適性に応じて科目を選択し、履修します。①英語・英語教育コースでは、「Reading(Language)」「Extensive Reading上級Ⅰ・Ⅱ」「アドバンストコミュニケーションⅠ～Ⅷ」等、②国際ビジネスコースでは、「貿易実務Ⅰ・Ⅱ」「金融システム論」「貿易理論」等、③国際理解・協力コースでは、「国際コミュニケーション論」「国際政治学」「国際問題論」「英国史」「社会情報論」等の授業が選択できます。また、学科共通領域として、「英米文化論」「異文化理解」等も履修することができます。

**【教育方法】**  
 外国語の4技能である「読む、書く、聞く、話す」を修得し、実践的な外国語能力を身につけるために、以下の様な形で教育を行います。  
 (1) 学生個々が英語の能力を効果的に高めることができるようにするため、「英文法Ⅰ・Ⅱ」「Extensive Reading初級Ⅰ・Ⅱ」「Extensive Reading中級Ⅰ・Ⅱ」「ベーシックコミュニケーションⅠ～Ⅷ」などの必修科目では、英語能力別にクラスの編成を行います。  
 (2) 聞く力や話す力を高めるため、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とし、「ベーシックコミュニケーションⅠ～Ⅷ」は主にネイティブ教員が担当します。  
 (3) ビジネス場面の実践的英語に習熟させ+16するための方法として、「キャリア英語入門Ⅰ・Ⅱ」「キャリア英語」ではTOEIC等の資格取得のための学修を取り入れます。  
 (4) 講義を起点とする科目においては、ICTも活用しながら、学生自身が課題を発見し、解決法を探究するアクティブ・ラーニングを実施します。  
 (5) 3、4年次の専門科目のいずれにおいても、実践的な能力を発展させるため、アクティブ・ラーニング等を取り入れた授業を中心として実施します。  
 (6) グローバル教育センターにおいて、学生の個別ニーズに応じ、ネイティブスピーカーによる英語と中国語の実践的会話を行うとともに、日本人教員による個別指導を行い、授業の補完とします。

**【学修成果の評価方法】**  
 (1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。  
 (2) 学修ポートフォリオ、学生調査、学位取得状況、PROGテスト、外部試験、授業アンケートなどを参考に総合的に評価する。



# 人文社会学部 社会学科 (令和2~5年度入学生) 履修系統図

## 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

### 【教育課程の編成、教育内容】

社会学科は、現代社会で活躍しうる能力・資質の形成を目指して、人間・社会、地域・メディア、心理、歴史の4コースを編成し、基礎から応用まで段階的かつ横断的に授業科目を配置します。また、4年間一貫した少人数制の演習科目を設定し、ICTを活用した、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を実践します。

(1) 演習: 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を少人数制で実践し、自らの考えをわかりやすく伝え、積極的にコミュニケーションをとることで、他者と協働しながら課題を解決する力を養います。1年次では「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、2年次では「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、3年次からの「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では2年間継続して同じゼミ教員のもとで「卒業研究」に取り組みます。

(2) 人間・社会コース: 社会的なものの方見方や考え、調査・分析方法を身につけ、社会学の基本を学びます。1年次必修科目として「社会学概論」、「社会病理学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、社会調査士の資格を取得するための科目群を設けます。

(3) 地域・メディアコース: ローカルからグローバル、メディアを媒介したもので、人と人とのつながりを通して社会や文化を読み解く力を養います。1年次必修科目として「文化研究概論」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。上記コース同様、社会調査士の資格を取得するための科目群を設けます。

(4) 心理コース: 人の心や行動の原理を知り、人間関係に対処する力を身につけます。1年次必修科目として「入門心理学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、認定心理士の資格を取得するための科目群を設けます。

(5) 歴史コース: 歴史的事実を分析・解明し、幅広い角度からものごとをとらえる視野を身につけます。1年次必修科目として「入門歴史学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、中学校社会や高校地理歴史・公民の教員免許、博物館学芸員の資格を取得するための科目群を設けます。

### 【教育方法】

社会学科では、各授業科目の教育内容に応じて、以下のような形式を組み合わせた多様な教育方法で授業をおこないます。

(1) 講義形式: ICTや映像資料などを活用しながら、本学科の学びに関する多様な教養や知識を身につける。

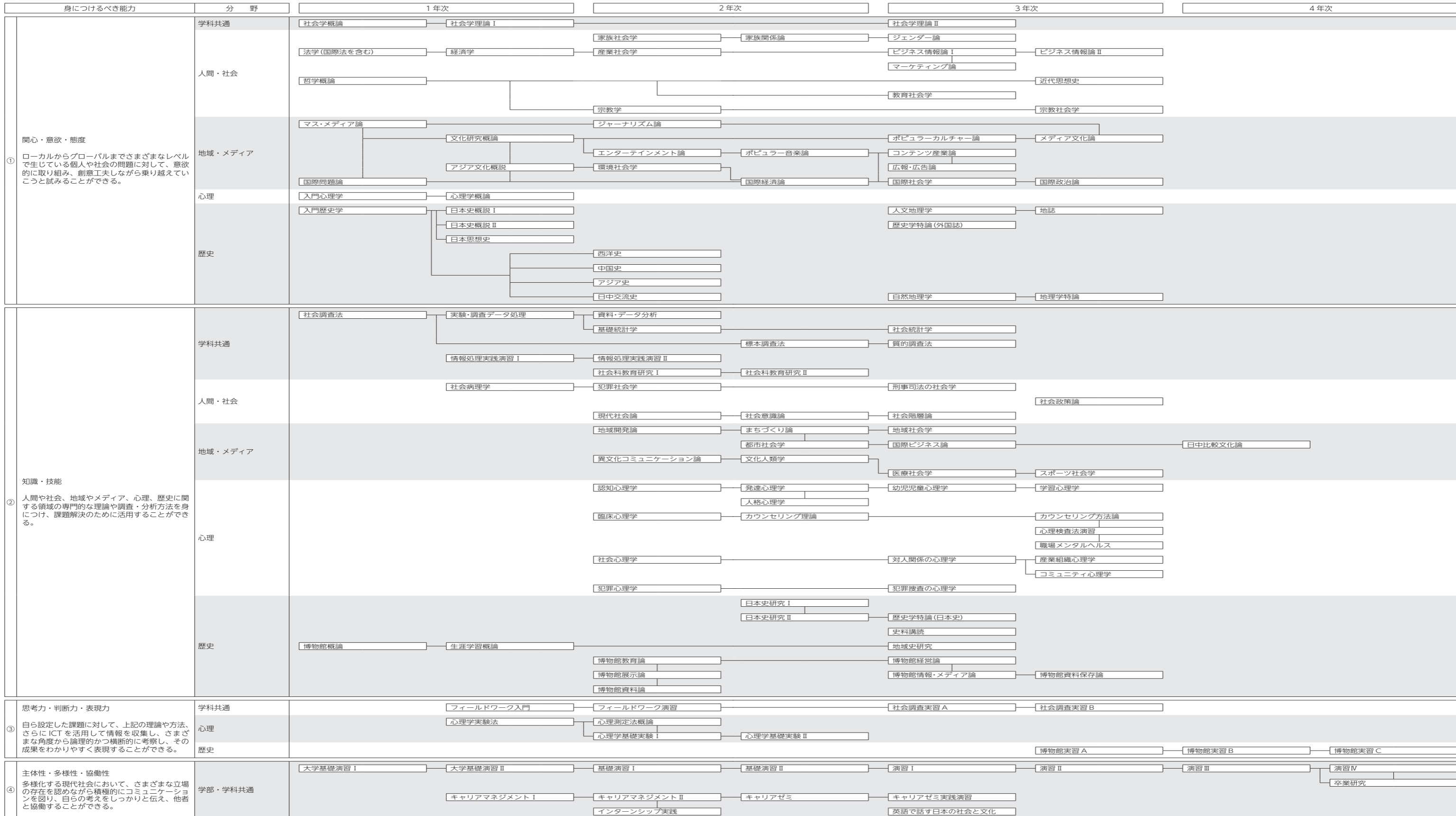
(2) (フィールドワークを含む) 実習形式: 自らの興味関心に即して課題を設定し、ICTを活用しながら調査・分析する技能を身につける。

(3) 演習形式: 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を少人数制で実践し、自らの考えをわかりやすく伝え、積極的にコミュニケーションをとることで、他者と協働しながら課題を解決していく力を身につける。

### 【学修成果の評価方法】

(1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーに基づいて評価を行う。

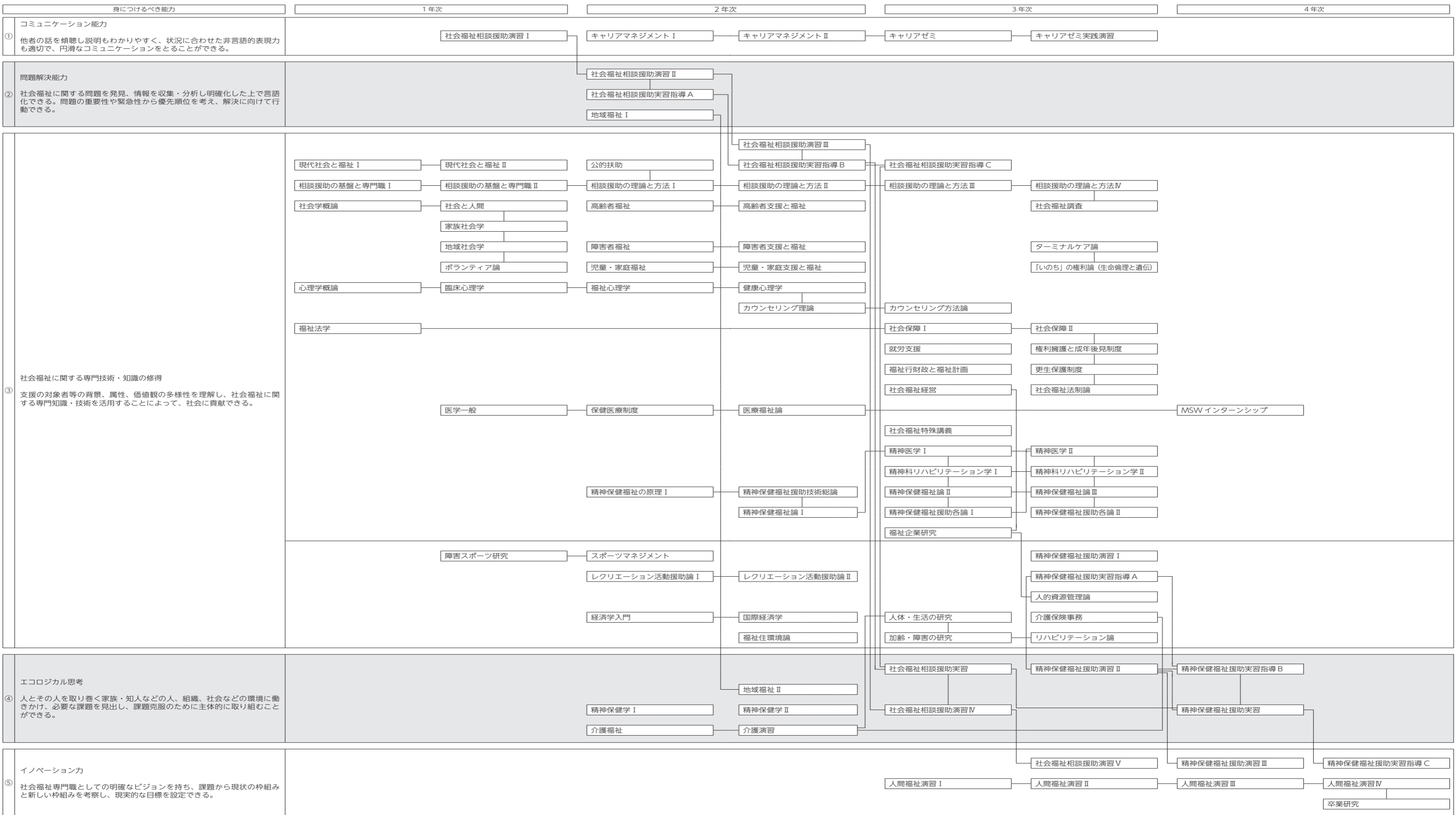
(2) 講義や演習科目で培われた知識や技能、能力を十分に発揮できているか、学生による自己評価も踏まえ、量的側面・質的側面の両面から適切な方法を用いて総合的に評価する。



# 人文社会学部 人間福祉学科 健康福祉専攻（令和2年度入学生）履修系統図

## 【教育課程編成・実施の方針】（カリキュラム・ポリシー）

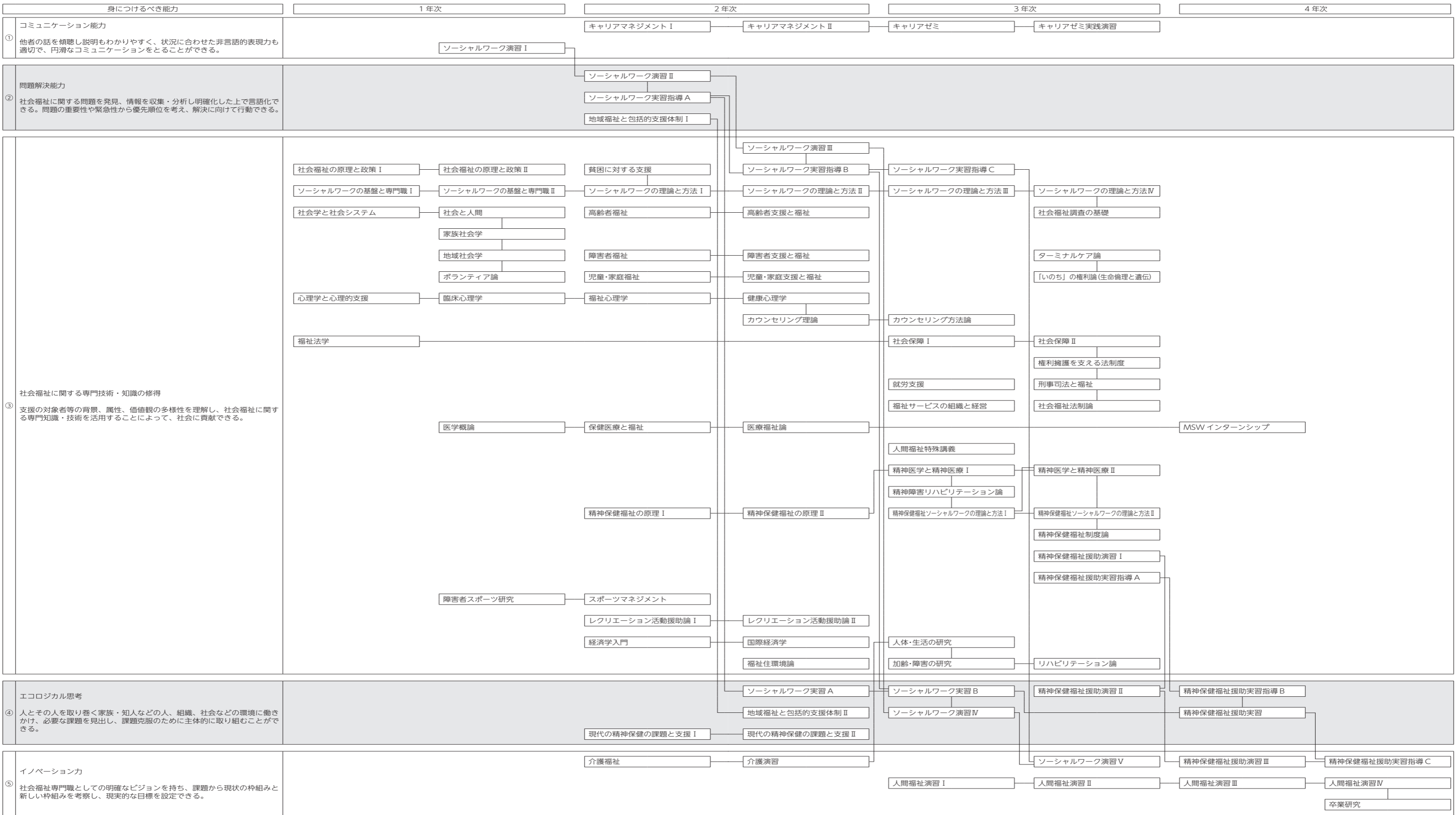
<p><b>【教育課程の編成、教育内容】</b>                  人間福祉学科健康福祉専攻は、社会福祉学の要素は理念や理論だけでなく実践であるため、アウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する能力修得など実際に活用ができるカリキュラムを編成し、現場での学修およびそれに資する教育の機会を核として、講義と演習がそれを支える教育形態とします。さらに、医学、心理学、社会学、介護学などの隣接領域の基本的な知識も修得します。</p> <p>(1) 1年次 自己覚知、倫理、価値等の学修を行い、ソーシャルワークの価値・原則・倫理について理解し、社会福祉活動への関心を高めるために、「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」を配置します。基本的な面接技術について、視覚教材や模擬的な実践によって修得するために「社会福祉相談援助演習Ⅰ」を配置します。社会福祉学をさまざまな視点から学修するために、「医学一般」「臨床心理学」「社会学概論」「福祉法学」などの隣接領域も学修します。</p> <p>(2) 2年次 社会福祉の専門知識と技術を修得するために「高齢者福祉」「障害者福祉」「児童・家庭福祉」「相談援助の理論と方法Ⅰ～Ⅳ」「地域福祉Ⅰ・Ⅱ」などの社会福祉領域の専門科目を履修。「社会福祉相談援助演習Ⅱ・Ⅲ」「社会福祉相談援助実習指導A・B」では講義科目との関連性を持たせ相談援助の展開方法について学ぶ。ソーシャルワーク業務の実践について具体的な理解し、実践的な技術を体得します。</p> <p>(3) 3年次 「社会福祉相談援助実習」において、相談援助に係わる知識と技術について、具体的かつ実際に理解し実践的な技術を体得する。「社会福祉相談援助演習Ⅳ・Ⅴ」「社会福祉相談援助実習指導C」において、ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己覚知等を深め、総合的に対応できる能力を修得し、実践と理論の一体的な理解を深めます。</p> <p>(4) 4年次 「人間福祉演習Ⅲ～Ⅳ」等を履修し、利他の精神に基づいて、人とのつながりを大切にしながら人と社会の在り方を多角的に考察する力を身に付け、社会福祉に関する専門知識・技術を活用することによって社会に貢献でき、現状に安住せず堅実かつ柔軟な思考で不断の刷新を図ることができる能力を修得します。</p>	<p><b>【教育方法】</b></p> <p>(1) 講義・演習・実習等の授業形態を組み合わせた授業を実施し、いずれにおいてもアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。</p> <p>(2) 演習においては、社会活動やフィールドワークを通して、課題解決を目的とするアクティブ・ラーニングを1年次から3年次まで段階的に取り入れる。</p> <p>(3) 実習やインターンシップにおいては、社会福祉実践現場において専門知識と専門技術の統合を1年次から3年次まで段階的に図る。</p> <p>(4) 実習においては、1年次から3年次まで実習報告会に参加し、学生の実習経験に応じた相互教育の機会を取り入れる。</p> <p>(5) 講義と演習を組み合わせた資格取得支援を目的とする授業を実施し、社会福祉専門職に求められる専門知識の定着を1年次から4年次まで段階的に図る。</p> <p>(6) 3年次から4年次の少人数のゼミにおいては、社会福祉に関する個別的な関心に沿って主体的な学修を促す。</p>	<p><b>【学修成果の評価方法】</b></p> <p>(1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。</p> <p>(2) ディプロマ・ポリシーを目標とする学生自身の自己評価を1年次の評価から実施する。</p> <p>(3) 講義においては、小テストや期末テストを実施して、到達目標の達成度を評価する。</p> <p>(4) 演習・実習・インターンシップにおいては、ルーブリックを用いて、学生自身が学修成果のリフレクションを行う。</p> <p>(5) 演習・実習・インターンシップ等においては、学生同士の相互評価やフィードバックを活用して評価する。</p> <p>(6) 実習においては、実習指導者による評価を部分的に活用し、学生が修得した能力について複数の教員によって評価を行う。</p> <p>(7) 学修ポートフォリオを用いて、1年次の大学基礎演習から3年次のソーシャルワーク実習B（令和3年度入学生）・社会福祉相談援助実習（令和2年度以前入学生）まで縦断的な評価を行う。</p> <p>(8) 1年次と3年次にPROGテストを実施し、リテラシーとコンピテンシーの評価を行う。</p>
--	--	---



# 人文社会学部 人間福祉学科 健康福祉専攻 (令和3年度入学生) 履修系統図

【教育課程編成・実施の方針】(カリキュラム・ポリシー)

<p><b>【教育課程の編成、教育内容】</b>                  人間福祉学科は、社会福祉学の要素は理念や理論だけでなく実践であるため、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する能力修得など実際に活用ができるカリキュラムを編成し、現場での学修およびそれに資する教育の機会を核として、講義と演習がそれを支える教育形態とします。さらに、医学、心理学、社会学、介護学などの隣接領域の基本的な知識も修得します。</p> <p>(1) 1年次 自己覚知、倫理、価値等の学修を行い、ソーシャルワークの価値・原則・倫理について理解し、社会福祉活動への関心を高めるために、「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」を配置します。基本的な面接技術について、視聴覚教材や模擬的な実践によって修得するために「ソーシャルワーク演習Ⅰ」を配置します。社会福祉学をさまざまな視点から学修するために、「医学概論」「臨床心理学」「社会学と社会システム」「福祉法学」などの隣接領域も学修します。</p> <p>(2) 2年次 社会福祉の専門知識と技術を修得するために「高齢者福祉」「障害者福祉」「児童・家庭福祉」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ～Ⅳ」「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱ」などの社会福祉領域の専門科目を履修。「ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅲ」「ソーシャルワーク実習指導A・B」「ソーシャルワーク実習A」では講義科目との関連性を持たせ相談援助の展開方法について学ぶ。ソーシャルワーク業務の実践について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術を体得します。</p> <p>(3) 3年次 「ソーシャルワーク実習B」において、相談援助に係わる知識と技術について、具体的かつ実際に理解し実践的な技術を体得する。「ソーシャルワーク演習Ⅳ・Ⅴ」「ソーシャルワーク実習指導C」において、ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己覚知等を深め、総合的に対応できる能力を修得し、実践と理論の一体的な理解を深めます。</p> <p>(4) 4年次 「人間福祉演習Ⅲ・Ⅳ」等を履修し、利他の精神に基づいて、人とのつながりを大切にしながら人と社会の在り方を多角的に考察する力を身につけ、社会福祉に関する専門知識・技術を活用することによって社会に貢献でき、現状に安住せず堅実かつ柔軟な思考で不断の刷新を図ることができる能力を修得します。</p>	<p><b>【教育方法】</b></p> <p>(1) 講義・演習・実習等の授業形態を組み合わせた授業を実施し、いずれにおいてもアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。</p> <p>(2) 演習においては、社会活動やフィールドワークを通して、課題解決を目的とするアクティブ・ラーニングを1年次から3年次まで段階的に取り入れる。</p> <p>(3) 実習やインターンシップにおいては、社会福祉実践現場において専門知識と専門技術の統合を1年次から3年次まで段階的に図る。</p> <p>(4) 実習においては、1年次から3年次まで実習報告会に参加し、学生の実習経験に応じた相互教育の機会を取り入れる。</p> <p>(5) 講義と演習を組み合わせた資格取得支援を目的とする授業を実施し、社会福祉専門職に求められる専門知識の定着を1年次から4年次まで段階的に図る。</p> <p>(6) 3年次から4年次の少人数のゼミにおいては、社会福祉に関する個別的な関心に沿って主体的な学修を促す。</p>	<p><b>【学修成果の評価方法】</b></p> <p>(1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。</p> <p>(2) ディプロマ・ポリシーを目標とする学生自身の自己評価を1年次の評価から実施する。</p> <p>(3) 講義においては、小テストや期末テストを実施して、到達目標の達成度を評価する。</p> <p>(4) 演習・実習・インターンシップにおいては、ルーブリックを用いて、学生自身が学修成果の振り返りを行う。</p> <p>(5) 演習・実習・インターンシップ等においては、学生同士の相互評価やフィードバックを活用して評価する。</p> <p>(6) 実習においては、実習指導者による評価を部分的に活用し、学生が修得した能力について複数の教員によって評価を行う。</p> <p>(7) 学修ポートフォリオを用いて、1年次の大学基礎演習から3年次のソーシャルワーク実習Bまで縦断的な評価を行う。</p> <p>(8) 1年次と3年次にPROGテストを実施し、リテラシーとコンピテンシーの評価を行う。</p>
--	--	---



# 人文社会学部 人間福祉学科 (令和4・5年度入学生) 履修系統図

## 【教育課程編成・実施の方針】(カリキュラム・ポリシー)

### 【教育課程の編成、教育内容】

人間福祉学科は、社会福祉学の要素は理念や理論だけでなく実践であるため、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する能力修得など実際に活用ができるカリキュラムを編成し、現場での学修およびそれに資する教育の機会を核として、講義と演習がそれを支える教育形態とします。さらに、医学、心理学、社会学、介護学などの隣接領域の基本的な知識も修得します。

- 1年次 自己覚知、倫理、価値等の学修を行い、ソーシャルワークの価値・原則・倫理について理解し、社会福祉活動への関心を高めるために、「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」を配置します。基本的な面接技術について、視聴覚教材や模擬的な実践によって修得するために「ソーシャルワーク演習Ⅰ」を配置します。社会福祉学をさまざまな視点から学修するために、「医学概論」「臨床心理学」「社会学と社会システム」「福祉法学」などの隣接領域も学修します。
- 2年次 社会福祉の専門知識と技術を修得するために「高齢者福祉」「障害者福祉」「児童・家庭福祉」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ～Ⅳ」「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱ」などの社会福祉領域の専門科目を履修。「ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅲ」「ソーシャルワーク実習指導A・B」「ソーシャルワーク実習A」では講義科目との関連性を持たせ相談援助の展開方法について学ぶ。ソーシャルワーク業務の実践について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術を体得します。
- 3年次 「ソーシャルワーク実習B」において、相談援助に係わる知識と技術について、具体的かつ実際に理解し実践的な技術を体得する。「ソーシャルワーク演習Ⅳ・Ⅴ」「ソーシャルワーク実習指導C」において、ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己覚知等を深め、総合的に対応できる能力を修得し、実践と理論の一体的な理解を深めます。
- 4年次 「人間福祉演習Ⅲ・Ⅳ」等を履修し、利他の精神に基づいて、人とのつながりを大切にしながら人と社会の在り方を多角的に考察する力を身につけ、社会福祉に関する専門知識・技術を活用することによって社会に貢献でき、現状に安住せず堅実かつ柔軟な思考で不断の刷新を図ることができる能力を修得します。

### 【教育方法】

- 講義・演習・実習等の授業形態を組み合わせた授業を実施し、いずれにおいてもアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。
- 演習においては、社会活動やフィールドワークを通して、課題解決を目的とするアクティブ・ラーニングを1年次から3年次まで段階的に取り入れる。
- 実習やインターンシップにおいては、社会福祉実践現場において専門知識と専門技術の統合を1年次から3年次まで段階的に図る。
- 実習においては、1年次から3年次まで実習報告会に参加し、学生の実習経験に応じた相互教育の機会を取り入れる。
- 講義と演習を組み合わせた資格取得支援を目的とする授業を実施し、社会福祉専門職に求められる専門知識の定着を1年次から4年次まで段階的に図る。
- 3年次から4年次の少人数のゼミにおいては、社会福祉に関する個別的な関心に沿って主体的な学修を促す。

### 【学修成果の評価方法】

- 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。
- ディプロマ・ポリシーを目標とする学生自身の自己評価を1年次の評価から実施する。
- 講義においては、小テストや期末テストを実施して、到達目標の達成度を評価する。
- 演習・実習・インターンシップにおいては、ルーブリックを用いて、学生自身が学修成果の振り返りを行う。
- 演習・実習・インターンシップ等においては、学生同士の相互評価やフィードバックを活用して評価する。
- 実習においては、実習指導者による評価を部分的に活用し、学生が修得した能力について複数の教員によって評価を行う。
- 学修ポートフォリオを用いて、1年次の大学基礎演習から3年次のソーシャルワーク実習Bまで縦断的な評価を行う。
- 1年次と3年次にPROGテストを実施し、リテラシーとコンピテンシーの評価を行う。

